

さくらんぼ 2 日間大会2009

武石雄市

2009 年 6 月 27・28 日（山形県山形市）

天地人シリーズ最終章！
大会テーマは「愛」 賞品は
美味しいさくらんぼ！
二日間に 4 レース。
田舎大会の在り方を模索
運営四方山話を書く爺々

大会概要

さくらんぼ大会は毎年山形県協会が主催している大会である。

さくらんぼのタイトルを付けて 10 回。今年は 6 月 27, 28 日の日程で山形市内を眼下に見下ろし西蔵王公園と悠創の丘を舞台にして賞品のさくらんぼをめぐる熱き戦いが繰り広げられた。

み、春日山大会も加えて天地人シリーズ戦の提案があった。取り立てて経費負担もないようであり、名称使用についてさくらんぼ大会後援者の NHK 山形放送局に問い合わせたところ NHK と書き込みがなければ支障のないことがわかり OK を出した。あだたら大会も同じように同意したので、藤島君の目論見どおり天地人シリーズ戦となった。

直江兼継の前立ては「愛」。さくらんぼ大会の大会テーマも「愛」を提案したら、競技責任の K 氏曰く、「常に作業の根底にあることなので今更のような気がします」と、素っ気無かったが、役員全員に「愛」の前立てをかぶせ、全参加者の氏名に愛、天、地、人の字が付けられている方をピックアップしてくれ、特別賞のさくらんぼを提供してシリーズに花を添えることとした。勿論、企画提案者の藤島君にも特別賞を贈って労をねぎらった。

調査と作図

4 月、テレインは例年より雪の消えるのが早く、調査は順調かな、と思ったが調査者がいない？

今年もスプリント 2 本、ナイト-O1 本、ロング 1 本の計 4 本がすべてニューマップ同然の調査が必要である。

例年のように調査は短期決戦であり町井稔氏はスプリントの悠創の丘から調査を開始した。爺々の目はもう調査が出来るほど確かではない。県内を見



男子優勝・李敬史 / 女子優勝・加納尚子
さくらんぼカップを手にする

人も資金も乏しく毎年開催決心するまで時間がかかる。公認大会にすれば参加人数も増えるからと進言するものがいて、ならばと思って申請リミットぎりぎり JOA に書類を送付した。

ところが事務局から承認する方向で検討している、と、一報が入っただけでなかなか承認されない。とうとう参加者募集するための要項印刷に間に合わず要項に「JOA 公認大会」の文字は挿入できなかった。

結果的に承認通知は申請所提出 2 ヶ月後に届いたが追いかけるように退会勧告書が届いた。永年に亘って経済状態困窮会員の実情を訴えてきたがそれには冷たい定款履行を理由に、除名されたくなかったら 4 月末までに退会届を提出せよ、と 4 月 26 日に配達された。

今年のさくらんぼ大会は JOA から退会直後の会員が主催した初めての公認大会でありました。

天・地・人シリーズ

公認大会のあだたら大会とさくらんぼ大会が参加者募集を開始して間もなく、突然藤島由君からメールが飛び込

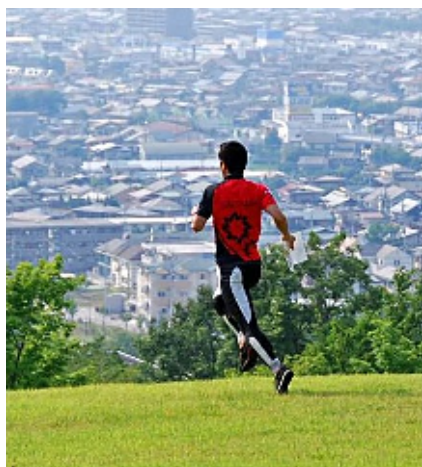


渡してもオリエン活動しているのはわづか 3 名、技術と根気がある調査は不得意分野であり、それを見越して大学卒業前に約束し、就職した日下雅広君が就職先の社長と掛け合いオリエンテーリング大会参加等、提示した条件に理解を得て山形の調査もできることになり、同期の久米航君も参入しロングの地図も同時進行で調査できることになった。

本当にありがたい。前年までと同様今年も東北大 OB のボランティアで地図が出来ることになり、大会当日の運営スタッフも東北大 OB そして宮城学院女子大 OG の伝統的協力を得てさくらんぼ大会の開催が担保される見通しとなった。

調査は 5 月末を完成予定として約 6 週間。幸いなことに 4 月から土・日の高速道路代が 1000 円摘要になり従来は効率が悪いので避けていた日帰り調査も出来た。

作図も悠創の丘を町井氏が JSSOM 基準、日下君が西蔵王を JSOM 基準で同時に書くことができ、逐次プリントアウトされた地図は翌週のウィークデーには遅滞なく競賞の柏倉君がテレインと照合し修正されていた。



山形市街地に隣接するテレイン。市街地にダイブしてゆく感覚。(写真：上林)

賞品 さくらんぼの担保

地球温暖化の影響か、3 年連続で最大産地のさくらんぼが不作気味が伝えられ心配したが、さすがに大臣表彰を何回も受賞した篤農家の元木太一さんは大会賞品数量に太鼓判を押して担保してくれた。おまけに参加者のお土産持ち帰り予約受けまで引き受けてくれた。

役員の宿がない？

この大会は伝統的に 2 日間大会としてきた。折りしも山形県内はさくらんぼ観光の真っ最中で 6 月は宿の予約が

至難である。

運営者も宿泊が必要であり前年までの例から、主催者幹旋の宿を学生主体に提供することを条件に役員分と合わせて 50 名分確保していた。

ところが、締め切り直前になり東北ブロックの学生に加えて関西方面の学生から宿泊希望があり、予約をはるかに超えてしまった。折角遠方から参加してくれる学生は大切にしたい、が、その日から役員の宿がなくなり、手当たり次第に空き室を探し回ったがこの次期約 20 名の空き室などあるはずがなかった。

とうとう営業を止めていた古い館を食事無し宿泊だけの条件で無理やり空けてもらい事なきを得たが、次回に繋がる大反省点である。



夏草に囲まれて走る 李 (写真：上林)

■申込者数の新記録と制限■

前回まで当日参加を加えると 1 日 300 名以上の参加者がカウントされたことはありましたが、今年は締め切りまでに個人が 299 名、フィットネスグループが 6 名で念願の 300 名の申込がありました。

毎年であるが首都圏のとある協会が我々の開催日にイベントをバッティングさせて来る。今年も二日目に当ててきたので参加者の大半は交通費がかからないように流れていくものと諦めていた。

協賛各社にはフィットネスに市民が当日参加する人数をプラスして 800 名分の提供品を要請していたのでどうにか面子を保つことが出来た。

さて、事前申し込み 300 名の数字には特別な意味があります。

スタッフが少なく事前準備やレース前夜の作業には限界があります。

仮に来年も開催する場合、現状のサービスを継続するには募集人数定数の検討をする必要があるのではと思っています。400 名を超えると準備に影響が

予想されます。



よい天候に恵まれた (写真：上林)

スプリント1・2

このテレイン最大の難点は更衣室になる建物がないことである。ほぼ中心位置に悠創館（作品展示館）があるが建造目的が異なるのでそのようなスペースは存在しない。

折りしも梅雨時なので女子更衣室としてレンタル TENT を張った。幸い天が味方して夏日になり降雨に備えて用意したブルーシートを使わずに済んだ。

ゴールエリアはスプリント 2 及びナイト O が同じ悠創館裏にセットし、スタートエリアにも徒歩 10 分以内に到着できるコンパクトで至便な距離セットにした。

遠方から参加する方に配慮してトップスタートを 13:00 に繰り下げ、8 時間に 3 レースセットしても参加者は楽しく次のレースが準備でき、時間的準備不足にはならなかったのではないかと推察しています。

スプリント 1 は公認レースなのでバックアップが記録できる記印装置として EMIT のタッチユニット、スプリント 2 はテレインを悠創の丘北半分を使用し、スピード感を味わってもらうためパンチフリーユニットを使用した。

成績も E クラスの男子クラスで常勝の善徳君が不参加なので上位はまあまあ順当の順位と思われた。女子は 3 名の世界選手権代表が参加し、皆川を抜いて加納尚子がトップになっていた。



並んでフィニッシュ。楽しかったかな。

ナイト-Oの魅力

昨年のアンケートに「さくらんぼをせめて一粒でも食べたかった」と意見を書いているのを見た。

さくらんぼをこんなに持ってきているのに食べていない人を知り、今年是一日目に商品不合格品を試食用に持ち込み食べてもらった。

レース中で試食できない人のため、ナイトOに参加すると食べられる確率の高い動くコントロールにパンチするとフィニッシュ後に1粒食べられるよう作をした。動くコントロールになった愛ちゃんは楽しさ半分、怖さが半分で大変でしたでしょう。

さくらんぼの魅力

さくらんぼ大会では賞品としてさくらんぼ高級品の佐藤錦をふんだんに提供し、特別賞も抽選やじゃんけんでゲットする確立が高いため、表彰には多くの参加者が残ってくれる。

今年も例によって、最以遠賞に山口県周南市の福田良雄氏、最高齢の金井一氏、三好良子氏、そのほかの特別賞として最少年齢賞、誕生日賞、前日誕生日賞、男女大学生最優秀新人賞等々を授与し、それでも用意して残ったさくらんぼをじゃんけん勝ち残り者がゲットし、中には入賞しないけどじゃんけんで2年連続さくらんぼをゲットした兵もいた。

ロングディスタンス

二日目も天候に問題はなかった。

西蔵王公園の自由広場を会場として早朝から準備した。

会場近くにキャンプ場があったが利用を制限しなかったので利用した家族

が何組か居た。

この会場は大きな8角形屋根の東屋風休憩建物があり、オリエンテーリング会場として利用価値が高く、フィニッシュやビジュアルコントロールに水道給水を利用できるし、暑い太陽光線をさえぎる樹木もあって木陰に居ながら応援も出来て、目を西下に転ずると山形市が遠望できて最高のロケーションで皆の評価も高かった。

レースは3年前の経験を生かし短めのコースにしたが、やはりアップはきつく体力勝負となった。

その中でEクラス男子初優勝は李敬史氏、女子は加納尚子が優勝し、二人は10回記念大会の優勝カップ「さくらんぼ大将賞」と「さくらんぼ女王賞」を授与して栄誉を称えた。



M35A 総合1位の吉田勉。
軽やかにテレインを駆け下る。(写真：上林)

主催者からひとこと

参加してくれた皆様ありがとうございます。この大会の目指していることが大きく二つあります。

一つは純粋にオリエンテーリングを競技し、とことん楽しませること。私たち運営者は口に出して言いませんが心底にこのベースがしっかり存在しています。

いま一つは、これは毎年ボランティアで運営に参画してくれる東北大や宮城学院女子大OB/OG諸氏に加えて、地図調査や試走そして大会準備・運営協力者の自発的出現を期待しています。

さくらんぼをタイトルにして10回の大会を持ちましたが、JOAの三役はこの田舎大会に1度も顔を見せません。地方協会を実質上預かり協会存続に心労している実態を理解してくれない悲しさに、老兵は時として一人涙することがあります。

理解されないまま、会員存続嘆願書には目もくれず、大会勧告を発し退会することになった。JOAは旧体制下でも会員数の減少はなかったが新体制にな

って5本の指に余る退会会員が出ている現状を皆様は理解できるでしょうか。

総合成績クラス1位

(タイムは3レースの合計)

M10	吉田耕平	2:11:22
M12	渡辺綺羅	2:08:37
M20A	中井智規	1:05:18
M21A	大橋悠輔	1:30:16
M21AS	小泉辰喜	1:05:52
M35A	吉田 勉	1:13:28
M50A	田中 徹	1:17:23
M60A	伊藤誠厚	0:58:55
M70A	高橋 厚	1:06:43
ME	李敬史	1:44:17
MB	齊藤 弘	0:37:13
W10	吉田桃子	1:42:23
W12	小林璃衣紗	1:23:42
W15	山岸夏希	0:46:00
W20A	江口沙綾	1:34:17
W21A	新井宏美	1:26:49
W21AS	梁取康子	1:46:44
W35A	浦瀬香子	1:28:51
W50A	植松裕子	1:07:52
WE	加納尚子	1:28:35

ナイト-O入賞者

Sクラス

- 1 小泉辰喜
- 2 柴田彩名
- 3 田村佳菜子

Mクラス

- 1 渡辺 幸
- 2 田辺卓也
- 3 吉田雅弘

Lクラス

- 1 三森聡一郎
- 2 中井智則
- 3 上野 光

(山形県協会代表 武石雄市)